ハレナシ、極テ大錢ヲ本トシテ、次第々々ニ錢ニ鑄タルニ紛レナシ、予ガ本寸トスル者ハ、大錢ヲ用ベキ者カトゾ仰アル、近侍臣我等如キ小身ナレドモカホド下情ニハ通ズルコト能ハズトテ、皆感心ストイヘリ、

〔勘者御伽雙紙中〕尺なをしの事六ヶ條

鯨尺を曲尺になをすには八分に割ばしるゝ也、

曲尺を鯨尺になをすには、八分かくればしるゝなり、

呉服尺を曲尺になをすには、一ヶ二分をかくればしるゝ也、

又三分をかけ、四をかくるも同じ斷、

曲尺を呉服尺になをすには、一ヶ二分にて割ばしるゝなり、

又三分に割、四に割も同斷、

呉服尺を鯨尺になをすには、九分六厘をかくればしるゝ也、

又三をかけ、四分をかけ、八分をかくるも同じ斷、

鯨尺を呉服尺になをすには、九分六厘に割ばしるゝ也、

又三に割、四分に割、八分に割も同じ斷、

右尺なをしの法は、女も裁物などに用ゐる事なれば、たゞしりやすからんことを欲て、術を二樣にしるすのみ、

〔數學類聚上〕日本に三種の尺あり、呉服尺、鯨尺、曲尺なり、呉服尺は、衣類を裁ち縫ひするにいにしへは用ひたる也、今世はくじら尺を用ゆれども、古へはくじらざしは用ひず、呉服尺を用ひたる也、くじら尺より五分短き尺也、此呉服尺は、曲尺を五つに切りて、六つよせて、其長さを一尺につくり、一尺には十寸づゝ也、一寸には十分づゝにしたる尺也、これは前條に云ふ所の周の例に准